

令和6年度 祥水園 法人事業計画（案）

法人理念

「してやるのではなくさせていただくのです」（宗祖お言葉 18 番）

法人経営指針

- ・ 共 生 我々は社会・地域・ご利用者と共生する喜びと感動を創作する
- ・ 貢 献 我々は誠実・努力・謙虚をモットーに絶えず自己研鑽に励み、
社会・地域に貢献する
- ・ 誇りと幸福 我々は仕事への誇りと幸福を追求し、働き甲斐のある職場作りを目指す

・ 近況報告

コロナ禍が収まりを見せつつも、新たな問題として、近年、騒がれている人材確保難・物価高騰で厳しい法人経営を迫られた一年であった。

特にご利用者の日常生活を支える水道光熱費・燃料費・食材高騰については大きな値上げ幅となって健全経営のかじ取りが厳しい状況でもあった。

コロナ禍で落ち込んだご利用者の入所、通所については、コロナ以前とは及ばずとも少しずつ伸び幅を上げつつあるが、食品の物価高騰に配食サービス・野原ダイニングは依然として厳しい状況は続いている。福祉の原点でもある地域貢献として今後も根気よく活動していく。

今年度は介護報酬単価見直しの時期となる。大きな改編として法人 BCP の作成とヘルパーとの併合が勧められることがあげられ、特に BCP においては作成が義務付けられ、災害時における持続可能な法人経営方針の施策と増え続ける高齢者の在宅生活をどのように支えていくか。それぞれにその仕組みを作って、実践していくことがカギとなる。介護報酬単価について、詳細は現時点では示されていないが、とにもかくにも物価高騰に法人経営が困窮し、ご利用者の生活を脅かすことのないような様々な介護サービスの基本報酬単価引き上げを望み、また、法人はできる限り無駄を省き経費削減に努めたい。

事業活動指針

- ① 法人健全経営
- ② 法人理念・組織の再認識と再構築

- ③ 公益事業（FM 五條・野原ダイニング・Miracle）健全経営
- ④ 介護技術研修「I wish」や学校訪問・講義提供による人材確保
- ⑤ BCPの実践と地域防災活動への参画強化
- ⑥ 徹底的な経費削減

令和6年度 特別養護老人ホーム 水杜・水がたり 事業計画（案）

①月間空床平均 75 部屋の達成

- ・年間空床数 900 を目標とし、稼働率の維持・向上
- ・各フロア今年度の実践より空床を 20 減らすためできることを月々で考え実践する
- ・入院数の減少とショートステイの利用数の向上
- ・入居や退院の調整のスムーズに行えるよう、病院・ケアマネジャーとの連携強化

②稼働状況等のリアルタイムでの見える化と情報の共有

- ・ユニット別での入院状況の共有し対策案とうまくいっている理由を検討する。
- ・朝礼での月空床数の共有とアプローチの実践
- ・介護度に対して、月間の延べ数を比較し対策を行っていく

③災害に対するシミュレーションの実践

- ・年 2 回日中で水道、電気（冷暖房以外）を使わない日を設け課題の洗い出しをする
- ・課題の中で備蓄品や対応方法について検討、まとめる
- ・多くの職員等の意見を集約し、対策案や対応方法をまとめる

④地域貢献の実践の中から介護のイメージの向上

- ・2 か月に 1 回程度こども園～大学へイベントボランティアや授業での実践報告をする
- ・長期的な形で人材確保につながるように活動の展開する
- ・新たな地域貢献活動の機会を創出し、ご利用者の活躍の機会を創り出していく

⑤家族会との協働の実践

- ・現在実践している活動、イベントの際に家族会への連絡や協働を依頼する
- ・家族会との意見交換の機会を設けていき、家族会の協賛行事への参加を促す
- ・家族会からを日々の実践に活かしていき、ご家族との協働について推し進める

令和6年度 祥水園 特養事務所事業計画（案）

法人理念

「してやるのではなくさせていただくのです」（宗祖お言葉 18 番）

法人経営指針

- ・共生 我々は社会・地域・ご利用者と共生する喜びと感動を創作する
- ・貢献 我々は誠実・努力・謙虚をモットーに絶えず自己研鑽に励み、
社会・地域に貢献する
- ・誇りと幸福 我々は仕事への誇りと幸福を追求し、働き甲斐のある職場作りを目指す

健全経営

1. 月次の報告から見る経営指標の資料作成と経営者への提言
2. 補助金、助成金を活用し収益を確保する

業務改善と経費削減

1. 無理・無駄に掛かるコストを見直し削減を行う
2. 作業工程を見直し時間コストの削減を行う
3. 購入品の価格見直しを行い経費と原価の削減を行う
4. キャッシュレス化の促進

BCP の実践

1. BCP 勉強会の実施
2. 作成した BCP を継続的に検討・修正を行う

令和6年度 デイサービスセンター漣 事業計画（案）

1. 活動方針

新型コロナの影響により、稼働率の低迷も続いたが、少しずつではあるが伸び幅をあげつつある。外出や交流の制限緩和により日常を取り戻してきており状況をみながら、デイサービスを介して人との繋がり地域との繋がりを積極的に行う。

令和6年度の介護報酬改正に伴い、新制度に向けた体制作りを行い、日平均稼働率24人を目指し稼働率を上げていくための取り組みを重点的に行っていく。自立支援、自己決定を主に置きながら理学療法士と公益事業ミラクルのスポーツトレーナーとのコラボを継続し医学的な根拠を示しつつ楽しく続けられる運動を提供していきたい。

また、ご本人だけでなくご家族との連携強化が必要不可欠であり、ご本人やご家族から生活上の相談、困り事、心身機能の維持・向上などのニーズを把握し的確なサービス提供に繋げ、在宅生活の継続に向けてデイサービスとしての役割を模索しご利用者・ご家族・職員が一丸となり尽力する。

2. 部門目標

- ① 稼働率の維持・向上
- ② 働き方改革による業務改善
- ③ 食中毒防止
- ④ 感染症発症及び蔓延を予防

3. 部署目標

①計画に基づいた営業活動の実施

- ・営業活動計画を作成し、営業努力目標の達成に向けて年間を通じた営業を行い、稼働率の向上を目指す。

②定常業務の見直し

- ・業務の優先順位を付け、優先順位の低い業務や重複している業務、不必要な業務の見直し。
- ・物理的レイアウトの見直し。
職員の導線を見直し業務の効率化。ご利用者の導線を見直し自立支援の促進と職員の負担軽減。
- ・システムやツールを活用し、業務の自動化・短縮を行う。

③定期的な衛生面の見直し（内部監査の実施）

- ・3か月ごとに衛生面の見直しとして、内部監査を実施する。対象としてフロア内のキッチンと野原ダイニングを交互に行うこととする。

④嘔吐物処理研修をはじめとする感染症対策の継続的な実施

- ・嘔吐物処理研修を定期的実施し、迅速な対応手順の精査や感染症や食中毒による影

響やリスクについての検討を行う。またフロア以外でのケースも想定されるため、各場面に応じた処理方法を実施、最小限のリスクで対応できるようにする。

- ・パワーポイントを使用したご利用者向けの健康教室の実施。ご利用者への啓発を行いつつ感染症のリスク軽減の機会を図ることとする。

<各ケース想定嘔吐物処理研修計画>

- ・7月 緊急時対応研修：嘔吐処理（フロア編）
- ・9月 緊急時対応研修：嘔吐処理（車内編）
- ・1月 緊急時対応研修：嘔吐処理（入浴編）

<健康教室>

- ・4月…コロナウイルス
- ・6月…脱水症状
- ・8月…食中毒
- ・10月…インフルエンザ
- ・12月…ノロウイルス
- ・2月…口腔ケア

<職員研修>

- ・5月…感染症
- ・11月…災害と感染症

令和6年度 ケアプランセンター水面 事業計画（案）

1. 近況報告

コロナ感染症も5類となり、ようやく世間も緩和策が講じられ、感染症蔓延前の日常がもどって来、施設内でもいろいろな行事が開催されるようになった。しかしながら、いまだ感染症対策を怠れない状況である。医療と介護の連携も深められてきており、今後も切れ目のない生活を支援できるよう、より一層各種連携を密にすることが求められている。

また、業務の適正化、効率化が求められており、質の高いサービスを効率よく提供できるよう、常に業務改善や見直しを行いながらすすめていく必要があると考える。

2. 部門目標

①稼働率の維持・向上

- ・他部署との連携を密にし、ニーズにあった、サービスの提供を行う。
- ・SNS等の活用、広範囲に広報し、顧客獲得を目指す。
- ・スポーツジム miracle とのコラボ企画“enjoyclub”を盛り上げ、スポーツジム miracle、湊の街、野原ダイニング等を広範囲に広報する。

②食中毒防止

デイサービスの検食や内部監査に参加しチェックする。在宅で不衛生など衛生管理が困難なご利用者は、必要なサービスを調整する。

③感染症発症及び蔓延を予防

感染症に関する情報は、常に気を配り各部署との連携を図りながら感染症予防に努める。

職員は感染予防の研修に参加し、知識、意識を高め、ご利用者、ご家族に伝達していく。

3. その他

○営業計画・・・スポーツジム miracle とコラボ企画“エンジョイクラブ”継続。

※50.60歳代をターゲットにした運動イベント。

※お友だち紹介キャンペーンなどを開催し参加者を増やす。

（湊の街のスウィーツをプレゼントし、湊の街に足を運んでもらう）

SNS等で在宅支援の様子や行事などの発信。

○特定事業所加算取得・□利用者に関する情報又はサービス提供しに当たっての留意事項に係る伝達等を目的とした会議を定期的で開催。

□当該指定居宅介護支援事業所、介護支援専門員の計画的な研修実施。

□地域包括支援センター等が実施する事例検討会に参加している事。

□他の法人が運営する指定居宅事業所と共同で事例検討会、研修会議等の実施。

□青・赤・緑本の勉強会実施。

○業務の改善を行う・・・効率化、改善方法を考え、月に1枚以上マルチで報告。

令和6年度 ヘルパーステーション 事業計画（案）

〈 ヘルパーステーションひと雫 〉

令和5年度にはコロナが5類に移行され、各ヘルパーも引き続き感染予防に気を付けて業務に携わる事ができ、訪問に関してその影響を受けずに済みました。

訪問の前半としては、昨年度からの要介護度の高い方のご利用や、介護職員等ベースアップ等支援加算があり増収となりました。また、事務員が加わり業務改善としての超過勤務を減らすこともできました。後半には扶養限度額に制限のある登録ヘルパーや兼務の介護職員の訪問業務の応援が不可能になる事態も起こり、横ばい状態です。またご利用者の心身の状況は日々変化していくことで、利用回数の多い利用者の入院や特養の入所・ご逝去などに移行する傾向があるのが常であり担当ケアマネージャー、軽費、デイサービスとの連携を取り新たなニーズを発見しサービスの追加と、新規依頼の獲得と共にご利用者の自立支援についての目標にも取り組んでいきたい。

また、令和6年には介護報酬改定となります

年明けに、能登半島地震が起こり、心を痛めると共に自分事として捉え、運営基準として盛り込まれるBCP（業務継続計画）で有事に備える。サービスの向上に取り組み、車の購入により中山間地域等で継続的なサービス提供を行う。そして、訪問介護と通所介護を組み合わせた複合型サービスも視野に入れたいと思います

部門目標

- ① 稼働率の維持・向上
- ② 食中毒防止
- ③ 感染症発症及び蔓延を予防

部署目標

- ① 通院介助や外出、介護保険外での自費サービスをサービス提供責任者が中心に回り増収を図る。訪問業務は引き続きサービス提供責任者、登録ヘルパー及び兼務の介護員で円滑に回るように訪問調整行う。サービス提供責任者の事務処理業務で他部署に移行できる業務をスムーズに引き継ぎ、訪問業務に専念しモニタリングなどもより計画的に行い登録ヘルパー、兼務介護員の意見交換にも活用する。
- ② 調理前の手洗い徹底、マスクの着用、調理器具の消毒、食材のチェック、ご利用者の手指消毒にも適宜注意を促す。ご利用者の食生活の確認等行う。
- ③ 訪問前後の手洗い、うがい、消毒を徹底とタケックス携行の継続。
訪問時は必要に応じフェースシールド、アイシールド、不織布マスク、手袋、防護服の装着を引き続き行う。ご利用者の身体状況、環境面の観察も強化し感染症の蔓延や症状悪化を防止する。感染症の知識を幅広く得る研修の実施や内部研修の感染症研修への参加、または資料配布を行い注意喚起する。

令和6年度 軽費老人ホーム月街事業計画（案）

1. 軽費品質方針

- (1)社会・地域・法人内部署と協調し、福祉サービス活動を支援する。
- (2)ご利用者が尊厳を持ち、自立した心豊かな生活ができるように支援する。
- (3)生活支援に関する技術と知識を高め、業務の継続的改善を行う。
- (4)リスクマネジメント行動指針に鑑み、ご利用者の安心・安全を支援する。

2. 軽費近況報告

・軽費老人ホームは設立より48年目を迎えた。昨年度同様全国的に、有料老人ホーム等が増えている中、軽費老人ホームは少しずつ減ってきている。また、少子高齢化が進み、独居、高齢者世帯が増え、五條市も少子高齢化が進み、更に五條市全体の人口自体減ってきている。五條市にアプローチする事はマストだが、市外、県外、都市部などへ外に目を向ける機会を増やしていかなければならないと考えている。橋本市、下市町、大淀町等へ行き、軽費また祥水園の話を聞いて頂く機会を増やし、少しずつ繋がりが増え、施設見学、入居等の問い合わせが増えてきている。今後も継続し、更に繋がりを増やせるよう出向いて行きたいと考えている。

人材確保についての体制も考えていかなければならない。軽費老人ホームの認知度が低く知らない方が多くいる。法人に頼るだけでなく、自分達が行っているサービスを自分達でアピールし、SNSの発信、学校や大学へ出向くなどをさせてもらい、人との繋がりを大事にしていきたいと考えている。現在、小学校や大学へ出向く機会が増えてきているので、私達上長だけでなく若い職員と共に行動し、育成にも繋げていく。

48年目を迎え、時代の変化が早くなっていく中、軽費として変わらないものを大切にしつつも、変えていかなければいけないことに目を向け、見直す力、改善する力、また新しいものを生み出す力をつけていく。

3. 各部署品質目標

1) 事務部門

相談員品質目標

品質目標

- 1.地域との連携を行う。
- 2.稼働率の高水準維持。

事務員品質目標

品質目標

- 1.月次決算のタイムリーな情報共有
2. 事務所内の継続的業務改善

2) 生活支援部門

生活支援員品質目標

品質目標

1. 地域への貢献
2. 各部署の職員と連携し月 1 回のイベント実施

3) 医療部門

看護師品質管理

品質目標

- 1.ご利用者の身体の自立を促進し健康長寿の構築を行う
- 2.職員の医療面の知識と技術の向上

4) 給食部門

栄養士品質目標

品質目標

1. 食のイベントの実施
2. 畑で野菜作り
3. 厨房倉庫内の備品整理

4. 顧客満足度調査について

結果について、別紙参照して頂きたい。令和 5 年 12 月から 1 月にかけてご利用者、ご家族・保証人様向けに顧客満足度調査を行った。ご利用者については、令和 4 年度と比べると、似ている結果だった。集団生活の中、軽費としてのルールがあるので、そのルールに対し不満がある方は、何名かおられる。出来る事は改善していくが、軽費として出来ない事もあるので、そこはきっちり精査していき、ご利用者とも話し続け理解して頂きたいと思っている。

ご家族・保証人については、令和 4 年度と比べ大変満足と答えて下さる方が増えている。面会、外出が再開となり、ご家族と職員が直接話せる機会が増えてきてからなのではないかと考える。また、職員からご家族に積極的にお話をしに行かせて頂いている結果だからだと思う。継続していく。

令和6年度 グループホーム慈泉庵事業計画（案）

社会福祉法人 祥水園 法人理念

「してやるのではなく、させていただくのです。」

1. 慈泉庵 運営方針

- ①私たちは、ご利用者が住み慣れた地域で心豊かに過ごせるように支援します。
- ②私たちは、ご利用者が尊厳を保持し、生きがいを持った生活を支援します。
- ③私たちは、絶えず自己研鑽に励み、ご利用者に安心・安全な介護を提供します。

2. 処遇方針

令和5年度は、「ご利用者主体の生活を支援する」をテーマにケアを実践してきた。ご利用者に手伝ってもらうのではなく、ご利用者も手伝う。ご利用者はお客様ではなく、ご利用者こそが慈泉庵の住人であることを再確認し、できる事を沢山発見し、職員はそれを活かし、個別のニーズを捉え、ご利用者の力を最大限発揮していただき、慈泉庵で長く住み続けられるよう支援をしてきた。地域へ出かける機会も増え、慈泉庵に人を呼ぶ機会もあり、少し活気が出てきたものの、まだ「ご利用者が主役である」所まで支援しきれていない。令和6年度は『その人らしい生活』をテーマに掲げ、ご利用者を知り、その人の人となりを深く掘り下げ、生活習慣や生活リズムを知り、その人らしい生活を送って頂けるような支援を目指し、畑や料理作り、大掃除などを、ご家族も巻き込んでやっていき、ご利用者の生活を支え、ご利用者の生活が豊かなものとなるようにしていく。

また、報酬単価の見直しや物価高騰などもあり、収支をしっかりと考えなければならぬ。ご利用者の重度化も見受けられる。入院が即稼働率の低下につながる為、特に転倒しない環境と身体づくりに力を注ぎ、入院数を減らし、建物も10年を超え、修理、修繕の必要な箇所も増えてきており、メンテナンスも行っていかなくてはならない。節電・節水をはじめ、職員の時間管理なども含めた経費削減を行い、あらゆる物を大切にし支出を減らすことも考えていく。

そして、災害は他人事ではなく自分事であると考え、BCPの実践と想定外を想定内としていけるような研修やシミュレーションを行い、明日の災害に備えた慈泉庵づくりを行っていく。

3.品質目標

品質目標

- ① 事業者外・地域を巻き込んだ個別支援の実践
- ② 認知症の啓発活動・広報活動の拡充
- ③ 地域の認知症カフェの開設

4. 年間計画（法人・慈泉庵行事）

4月	生誕祭、お花見
5月	防災訓練
6月	バーベキュー
7月	七夕、きゅうり加持
8月	盆供養、夏祭り
9月	長寿式、彼岸法要
10月	運動会
11月	防災訓練
12月	紅白歌合戦、忘年会、餅つき
1月	書初め、新年会、寒行
2月	開園記念式典、節分
3月	ひなまつり、彼岸法要

※誕生日会のご利用者の誕生日当日に実施予定

※上記以外の食事等に関するイベントを月2回程度実施計画する

5. 研修計画

- ①認知症介護実践者研修 1名
- ②認知症介護リーダー研修 1名
- ③その他介護知識・技術に関する研修 都度

令和6年度公益事業部事業計画（案）

祥水園野原西 village の意義、「地域共生」を目的とし、地域住民の方やご利用者、ご利用者のご家族、職員が交流を生み、暮らしに活力を与え、生きがいや癒しを感じる事が出来るサービス提供に努める。法人内部署と連携、協調しながら公益事業の運営を行う。

【野原ダイニング】

目標

1.野原ダイニング健全経営

- ・新規顧客の確保の為、各居宅介護支援事業所および介護サービス事業所への働きかけ
- ・公的機関への給食提供の実績づくり
- ・食数減少に対する現状を調査し、原因を検討
- ・滯の街、野原ダイニング SNS 発信

2.物価高騰に対するコスト削減

- ・食材の見直し（業者の変更・代替案の検討）
- ・適正在庫の管理
- ・配達員のコース見直しによる人員配置の適正化
- ・厨房職員シフト見直しによる業務の軽減
- ・一部外部部署への事務作業委託で野原ダイニング事務員の負担軽減

3.厨房職員の次世代育成

- ・味付けの安定化
- ・各々が担当できる業務の増加

【FM 五條】

目標

1. 防災・減災情報の発信、災害時の情報発信による地域貢献
2. 黒字化（設備機械更新のための積立金の確保）
3. 仕事の質の向上と業務効率化を経て、コスト削減

【スポーツジム Miracle】

目標

1. 会員の再入会・新入会の正確・迅速な手続きの実施
2. 健全運営、広報活動から事業収入予算の達成
3. SNS や掲示板を活用し、地域とのつながり強化

【リラクゼーションスペース JADE】

目標

1. ご利用者、職員の安寧の為健全な運営を行う
2. ご利用者、職員利用の増加につなげ 黒字化